

NPO法人阿蘇花野協会 ニュースレター



Vol.01

平成28年

阿蘇花野協会は、古くから行われてきた野焼き・放牧・採草等という人々の営みの中で維持されてきた阿蘇の草原とそこに咲く希少な植物が、担い手の減少や農業の近代化等で失われていく中、植物の保全と再生に向け、買上げた放棄地などにおいて、毎年、草刈り・草集め・野焼きなどを実施しています。

今回は秋ごろから行っている活動についてご紹介します。

茅束作り

トラスト地のうち、毎年野焼きを行う場所にはススキがよく育ちます。それを地元農家の方に刈り取って茅束を制作してもらっています。農閑期の農家の安定的な収入として定着すれば、放棄地となっている場所を草原に再生しようという地元農家の自発的な取り組みへとつながり、豊かな草原の再生が広がっていくと期待しています。



茅束づくり



草刈り



地がき

ハナシノブ保護区での 活動状況

昨年度、皆さまからのご寄付と日本ナショナル・トラスト協会からの助成金で取得した環境省のハナシノブ保護区となっている土地では、6～9月にかけて盗掘防止のためのパトロールを実施しました。

12月には、草刈りをした後、レーキで表面の草をきれいに取り除きました。植物の再生の力を信じ、来年、またその先の群生地復活に向けての作業です。夏が来るのが今から待ち遠しくなります。

新たな放棄地の再生

本年度の助成金で、新たな放棄地の再生に取り組んでいます。油圧ショベルでの作業の後、延焼を防ぐためさらにその内側の草を数メートル刈り取って燃やし、確実な防火帯を作りました。この場所は藪になっているため、野焼きの後、灌木除去を行って草原への再生を目指します。

野焼きだけを行うとススキが多く育つ草原になります。このため、希少植物が多く生息する場所では、草刈り・草集めの作業が欠かせない作業となり、その多くを地元農家に委託していますが、予算も限られ、十分には行えていない場所もあります。



たくさんの花々を観察できる豊かな花野を再生するため、今後とも、体験作業へのご参加、活動資金へのご協力をどうぞよろしくお願い致します。

